



公益社団法人

日本語教育学会

2017年度第1回支部集会【九州・沖縄支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

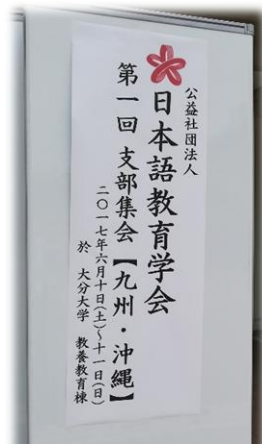
協賛：国立大学法人大分大学 協力：九州日本語教育連絡協議会

開催日：2017年6月10日(土)・11日(日) 会場：大分大学 旦野原キャンパス

参加者：109名(会員80名・一般29名)

支部活動委員会が発足してから初めての支部集会が2日間にわたり、大分大学旦野原キャンパスで行われ、両日合わせて100名以上の方に参加いただくことができました。

昨年度までの研究集会と今年度からの支部集会が大きく異なる点は、研究発表(口頭発表・ポスターなど)の応募形態や応募締め切り日、査読方法などが大会と統一された点です。また、新しい展示形態として、査読がなく、学会員以外も応募が可能な「交流ひろば」への応募も開始されました。このような事情もあり、本会では、研究発表はポスター発表の3件にとどまり、新企画の「交流ひろば」も3件のみの展示となりました。



写真左上：鈴木講師は初日に大講堂で講演，2日目は教室にてワークショップを行いました。

写真下3枚：「よろず相談」は，参加者が各講師にじっくりと話を聞くことができました。

しかし、その一方で、熊本大学の鈴木克明先生の講演・ワークショップの他に、九州・沖縄支部にそった企画として熊本震災関連のパネルディスカッションや、九州・沖縄の今後の日本語教育を考える「学のデザイン」ワークショップ、さらに多読に関するラウンドテーブルなど、多彩な企画を開催することができました。また、気軽に講師に質問してもらうことを目的とした「よろず相談」や、チャレンジ支援委員会との共同企画として「発表応募支援セミナー」も行われました。くわえて、1日目の夜に開催した懇親会では、大分杉の香る真新しい生協食堂において、郷土料理を堪能し、情報共有や交流の場を設けることができました。

参加者からのアンケート結果によると、全体的に参加者の満足度は高く、充実した支部集会となったことがうかがわれました。自由記述では、「多様なニーズに対応できる内容だった」や「実践的な内容に富んでいて有意義だった（やる気が出た）」「アットホームな雰囲気できれいに情報交換できた」「充実した2日間だった」などのように企画への肯定的な評価がみられました。特に、「よろず相談」については、「少数でひざをつきあわせてよろず相談できるのは新しい試みで満足だった」「聞きたいことが聞けた」「かゆいところに手が届くような内容」「初歩的な質問にも丁寧に分かりやすく実践例を示して説明していただいた」などの感想がみられ、参加者にとっても満足度の高い企画だったようです。



「ポスター発表」



「交流ひろば」



「チャレンジ支援委員会コラボ企画」



「ラウンドテーブル」

しかしながら、研究発表の少なさや、企画内容の改善を指摘する意見も寄せられました。今後の支部集会への要望として、「研究発表の増加」や「ワークショップ、ラウンドテーブル、よろず相談などの継続」があげられました。来年度の企画に向けての課題としたいと思います。

会場校の大分大学の先生方をはじめ、多くの方々のご協力を得て、このような多彩な企画を実施し、無事に終了することができました。あらためて当日の参加者や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(報告者：支部活動委員 中島祥子)